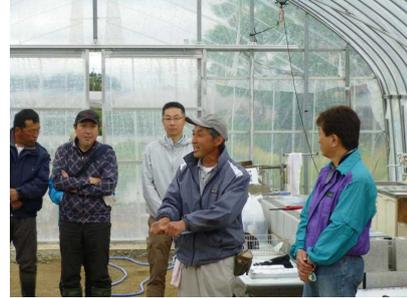


アジア・アフリカ支援米「第2回田植え祭」の開催

連合北海道と食・みどり・水を守る道民の会は5月31日、アジア・アフリカ支援米「第2回田植え祭」を空知管内由仁町の三田村農場において開催し、組合員とその家族など64名が参加した。

アジア・アフリカ支援米の取り組みは、これまで食料不足に苦しむカンボジア・マリに対し、支援米作付けや茶碗一杯のコメ・カンパ活動などによって進めてきたが、それに加え、昨年度より、生存の根源に関わる食料の重要性、食料輸入に頼る危うさ、また農業体験を通して農業促進の必要性や良さを感じ取ってもらおうと「田植え祭」を開催している。



開会式では主催者を代表して、道民の会高倉司会長より「皆さんの家庭から茶碗一杯のコメを持ち寄っていただいて送っていたが、それと合わせて少しでも多くのコメを送れるようご協力をお願いしたい。」と挨拶がされた。また、全農林北海道ブロック協議会芳賀郁夫議長は、「自分達の手がけたものでアジア・アフリカの飢餓を少しでも支援したい。秋の収穫を想像し、飢餓で苦しんで

いる人たちに思いを巡らせながら作業をしてほしい。」と述べた。

参加者は、協力農家の三田村雅人さんより田植えの作業内容などについて説明を受けた後、裸足で田んぼに入り、苗を植えた。初体験の人も多く、悪戦苦闘しながらも、笑い声につつまれながら田植え作業は終了。その後、ジンギスカンを囲みながら、懇親を深めた。

作付けした支援米は、秋に開催する「収穫祭」で収穫作業をし、来年、カンボジア・マリに送る予定となっている。

